

# 主 論 文 要 旨

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	寺岡 丈博
主 論 文 題 目： 動詞連想概念辞書の構築とその応用研究―連想に基づいた意味理解システム―				
(内容の要旨)				
<p>近年、自然言語処理研究では、コンピュータの言語理解機能を人間に近付けるために様々な言語資源が、人間が持つ言語の背景知識を体系化したものとして構築・応用されてきた。しかし、意味理解・文脈理解に関する精度は十分に向上していないため、このような知識の体系化に対しては従来と異なったアプローチが必要であると考えられる。</p> <p>そこで本研究は、動詞に関する連想実験のデータから動詞連想概念辞書を構築し、意味理解システムに応用してコンピュータの言語理解機能を向上させることを目的とする。この連想実験では、基本動詞が刺激語として深層格の名称とともに呈示されるため、実験参加者は連想語としてこれらの深層格情報を答える形式となっている。そして、連想実験から得られたデータを用いて、刺激語に対する連想語の連想し易さを単語間距離として定量化し、連想距離と定めた。これらの刺激語、連想語、そして連想距離を用いて動詞連想概念辞書を構築し、知識の体系化を図った。</p> <p>構築した動詞連想概念辞書を評価するため、まず始めに、既存辞書と共通するデータを比較分析し、連想情報と共起情報の性質の差異を示した。そして、「省略語の推定」と「換喩表現の検出」に関する意味理解システムへ応用し、従来手法を参考にしたベースラインを用いて評価実験を行った。その結果、いずれの応用システムも、従来手法より統計的有意差をもって高い精度を示すことができた。</p> <p>以上から、動詞連想概念辞書は、共起情報とは異なる連想情報から成り、意味理解において有用であることが、本研究の結論として言える。</p>				
キーワード：連想概念辞書，連想実験，動詞，省略，換喩				